

JR西日本あんしん社会財団
第3回連続講座

『いのち』を 考える

～生きることの苦悩と喜び～

死や悲嘆・グリーフケアはもとより、多様な観点から
「いのち」に焦点を当て、ともに考える連続講座を開講します。

開講期間 平成25年5月8日から平成25年7月10日 連続10週
毎週水曜日 18:30～20:00

会場 関西国際大学尼崎キャンパス (JR尼崎駅北口とデッキ直結)

定員 350名 (参加無料・要事前申込) ※お申込み多数の場合は抽選

主催 公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団

協力 西日本旅客鉄道株式会社

後援 関西国際大学

『いのち』を考える

第3回連続講座

～生きることの苦悩と喜び～

JR西日本あんしん社会財団は、平成24年度より、死や悲嘆、グリーフケアといったテーマはもとより、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える連続講座を開講しています。

① 5月8日(水)



青木 新門
作家、詩人

『いのちのバトンタッチ』
一映画「おくりびと」に寄せて

私はひょんなことから葬儀社に勤め、納棺師兼社員として働いていたことがありました。そんな葬儀の現場で死者たちから教わったことは『いのちのバトンタッチ』の大切さであった。そのことを納棺の現場体験や映画「おくりびと」の観覧などを交えてお話しさせていただきます。

② 5月15日(水)



細谷 亮太
聖路加国際病院
小児総合医療センター長

子どものいのちの傍で

治らなかつた時代から、8割ほどが治るようになった今日まで、小児がんの子ども達の傍にいて、さまざまな『いのち』に接し、その周囲の人達とおつきあいをさせてもらって来た。そこから教えていただいたことは、人間に生まれてきてよかったという事。

③ 5月22日(水)



伊藤 高章
桃山学院大学教授

『いのち』を聴く「アート」と「アート」
—スピリチュアルケア教育の現場から

悲嘆のご経験をゆくりとそして静かに受けとめる孤独な時を経て、今度はご自分がケアの提供者となろうと学びを続ける方々がいらつぱいます。その教育にご一緒する機会をいただいています。ありのままの心と向きあう、ケアアートの責いです。

④ 5月29日(水)



田村 恵子
淀川キリスト教病院看護部主任課長、
がん看護専門看護師

『いのち』向き合う
—生と死の境界を越えて—

いつかは死すべき私たちが死との対峙を余儀なくされたとき、死から生をまなざし、弱さの中にしなやかさを身につけて、人が無理の瞬間まで生き抜くことについて、ケアの視点からご紹介いたします。ケアの実態を理解していただくことを通して、死をも視座において「私」が生きていることをご一緒に考えてみましょう。

⑤ 6月5日(水)



田中 幸子
「全国自死遺族連絡会」世話人

悲しみは愛しさと共に

自死遺族として自助グループ活動をなぜ広げてきたのか、そして子供を亡くした親の会を通じて、震災の遺族の自助活動支援を見てきたこと、大切な家族の死への悲しみは愛しさとともにあり、悲しみは愛であり、だから悲しみには力があることを知っていただきたいと願っています。

⑥ 6月12日(水)



大井 玄
東京大学名誉教授

『お迎え現象』と
つながりの心理

「お迎え現象」は、結末期にある人がすでに亡くなった親しい人と会う現象である。この現象は意識の存在から解釈することも、脳の認識機能から説明することも可能に見えるが、いずれにせよ、その中核には「つながりの心理」が働いているように見える。つながることにより私たちは安堵するのである。

⑦ 6月19日(水)



島園 進
東京大学教授

日本人の死生観と無常観

仏教は無常を知り仏道に心を向けることを教えてきた。それはまた実意識にも浸透し、桜はいのちのはかなさを思わせるが故にこそ歌い続けられてきた。こうした日本人の死生観がどのように変化して現在に至っているのか、ともに考えていきたい。

⑧ 6月26日(水)



河邊 貴子
聖心女子大学教授

翼する命を送るとき
～河辺家のホスピス絵日記より～

末期がんの夫はホスピスで最終の時を迎えました。がんが発見された時の思い、再発したときの落ち込み、共に歩んだ旅路として、そのときどきに何を感じ、どう支えたのか。また、私たちが受けたホスピスケアとはどんなものだったのか。体験を語りしたいと思います。

⑨ 7月3日(水)



柏木 哲夫
金城学院学院長、
淀川キリスト教病院名誉ホスピス長

いのちに寄りそうケア

病室や災害で困っている人を「支える」という。支えるは、下からである。支えなければその人は落ちるという気持ちがある。「寄りそう」は横からである。寄りさえすれば、その人は前に進むという信頼感がある。いのちに寄りそうことについて考えてみたい。

⑩ 7月10日(水)



水谷 修
花園大学客員教授、
関西大学客員教授

夜回り先生、いのちの授業

今、多くの人たち、子どもたちが、明日を夢みることができず、苦しんでいます。リストカットや鬱病、自死にいたる方々もたくさんいます。その背景と解決方法をお話しさせていただきます。

お申込み方法

ホームページから

お申込みはコチラ

JR西日本財団

検索

※ハガキでもお申込みいただけます。(「連続講座参加希望」と明記の上、参加される方の氏名(要フリガナ)、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレスを記載し、下記の宛先へお送りください。)

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 JR西日本あんしん社会財団

- ※10回通しの講座のため、全回一括でのお申込みとなります。特定の日のみの参加またはお申込みはできません。
- ※ハガキでのお申込みの場合は、1枚につき1名様のお申込みとさせていただきます。
- ※申込締切:平成25年4月8日(月)(ハガキの場合は必着)
- ※お申込み多数の場合は抽選とし、当選者の発表は受講証の発送(4月下旬頃)をもって代えさせていただきます。
- ※お申込みが本会場の定員を超えた場合、モニターで視聴できる別室(モニター会場)をご案内させていただく場合があります。ご希望の方は「モニター会場でも可」とご記入ください。なお、最初からモニター会場での視聴のお申込みはできません。
- ※お申込みで知り得た情報は、当該講座の運営及び財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。



ご来場は、公共交通機関をご利用ください。